

掘削技術の重要性強調

ジオパワー学園 白糠高で出前授業

【白糠】白糠高校（佐野 住夫校長）で町内の学校法人ジオパワー学園掘削技術専門学校（井上政史校長）の出前授業が開かれ、1年生22人が日本の未来と掘削技術の重要性に理解を深めた。

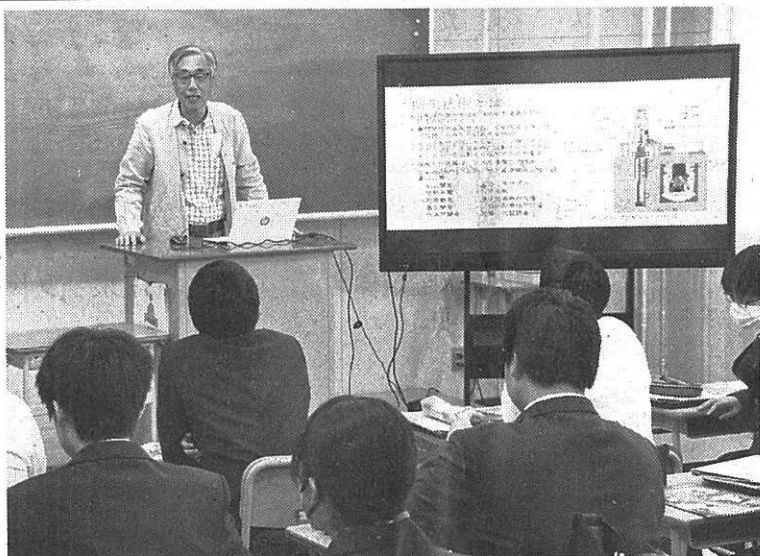
両校の特別連携の一環で、5月23日に初めての出前授業を開いた。授業で井上校長は近年注目が高まる再生可能エネルギーについ

て「洋上風力発電をやるには、砂浜を掘って地下に送電設備を埋めないといけないし、地熱発電は穴を掘って蒸気を取り出すので、これからは掘削技術者が今まで以上に必要になってくる」と掘削分野の重要性を強調した。

続いて同学園の島田邦明理事が学園の設備を紹介し、地熱発電を「天候に左右されず安定して供給できる国産エネルギー」と解説。

掘削技術の奥深さについては「宇宙は見え、行くこともできるが、地下は違う。人類は深さ約1万2000

メートルまで掘り進めた記録があるが、これは地球をリング



に例えたとき、皮の下にも届いていない。まだまだ進歩が必要な分野だ」と語った。

とはあまり詳しくなかったが、「二酸化炭素排出が少なく、安定したエネルギーだと分かった」と話していた。

授業に参加した今野仁さん（15）は「地熱発電のこ

生徒に掘削技術の展望を語る島田理事（壇上）

＝白糠町役場提供